	英語会話
1 目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，身近な話題について会話する能力を養う。
2 内容	(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して，次のような言語活動を英語で行う。 ア　相手の話を聞いて理解するとともに，場面や目的に応じて適切に応答する。 イ　関心のあることについて相手に質問したり，相手の質問に答えたりする。 ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 エ　海外での生活に必要な基本的な表現を使って，会話する。 (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために，次のような事項について指導するよう配慮するものとする。 ア　リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴，話す速度，声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 イ　繰り返しを求めたり，言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用すること。 ウ　ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し，場面や目的に応じて適切に用いること。
3 内容の取扱い	(1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ，実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら，聞いたり話したりする能力の向上を図るよう指導するものとする。 (2) 読むこと及び書くこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより，聞くこと及び話すことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。 (3) 生徒の実態に応じて，多様な場面における言語活動を経験させながら，中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。

英語に関する各科目に共通する内容等

1　英語に関する各科目の２の(1)に示す言語活動を行うに当たっては，例えば，次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から，各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ，有機的に組み合わせて活用する。

[言語の使用場面の例]

a　特有の表現がよく使われる場面：
- ・買物・旅行・食事
- ・電話での応答・手紙や電子メールのやりとりなど

b　生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面：
- ・家庭での生活・学校での学習や活動・地域での活動
- ・職場での活動など

c　多様な手段を通じて情報などを得る場面：
- ・本，新聞，雑誌などを読むこと・テレビや映画などを観ること
- ・情報通信ネットワークを活用し情報を得ることなど

[言語の働きの例]

a　コミュニケーションを円滑にする：
- ・相づちを打つ・聞き直す・繰り返す
- ・言い換える・話題を発展させる・話題を変えるなど

b　気持ちを伝える：
- ・褒める・謝る・感謝する
- ・望む・驚く・心配するなど

c　情報を伝える：
- ・説明する・報告する・描写する
- ・理由を述べる・要約する・訂正するなど

d　考えや意図を伝える：
- ・申し出る・賛成する・反対する
- ・主張する・推論する・仮定するなど

e　相手の行動を促す：
- ・依頼する・誘う・許可する
- ・助言する・命令する・注意を引くなど

2　英語に関する各科目の２の(1)に示す言語活動を行うに当たっては，中学校学習指導要領第２章第９節第２の２の(3)及び次に示す言語材料の中から，それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際,「コミュニケーション英語Ⅰ」においては，言語活動と効果的に関連付けながら，ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。

ア　語，連語及び慣用表現

(ｱ)　語

a　「コミュニケーション英語Ⅰ」にあっては，中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語

b　「コミュニケーション英語Ⅱ」にあっては，ａに示す語に700語程度の新語を加えた語

c　「コミュニケーション英語Ⅲ」にあっては，ｂに示す語に700語程度の新語を加えた語

d　「コミュニケーション英語基礎」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」にあっては，生徒の学習負担を踏まえた適切な語

(ｲ)　連語及び慣用表現のうち，運用度の高いもの

イ　文構造のうち，運用度の高いもの

ウ　文法事項

(ｱ)　不定詞の用法

(ｲ)　関係代名詞の用法

(ｳ)　関係副詞の用法

(ｴ)　助動詞の用法

(ｵ)　代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの

(ｶ)　動詞の時制など

(ｷ)　仮定法

(ｸ)　分詞構文

3　２に示す言語材料を用いるに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　現代の標準的な英語によること。ただし，様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

イ　文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

ウ　コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造，文法事項などの取扱いについては，用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し，実際に活用できるよう指導すること。

4　英語に関する各科目については，その特質にかんがみ，生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする。その際，生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。